

# ぽこ・あ・ぽこ

Poco a Poco イタリア語で「少しずつ」という意味です。

第48号 平成17年3月15日 発行

発行者 神戸婦人同協会 子供の家  
社会福祉法人 兵庫県尼崎市若王寺3-16-3  
〒661-0974  
tel 06 6491 8953 fax 06 6498 3444  
支援センター (tel. fax) 06-6491-1811  
E mail (子供の家) info@kodomono-ie.org  
(支援センター) candy@kodomono-ie.org  
URL http://www.kodomono-ie.org



「レオ・キャンプ」  
平成十七年三月五日(土)～六日(日)レオクラブ主催の「児童育成キヤンプ」に児童十名、男児五名、女児五名が招待されました。今年、国立淡路青年の家で宿泊をし、キヤンプ・ファイヤー、楽焼や牛の乳搾り体験など、普段できないプログラムをいろいろと子ども達は体験して帰ってきました。一番楽しかった事を聞くと楽焼と言う子ども達が多く、先日届いた楽焼(お皿)を大切そうに受け取っていました。また、このキヤンプで他の施設のお友達も沢山きたようでキヤンプの写真を見ながらお友達について話をしてくれました。今年も楽しいキヤンプを企画して頂き、本当に有難うございました。

「第二回兵庫県児童養護連絡協議会処遇研修会」  
平成十七年二月二十七日(日)コミスタ神戸セミナーで直接処遇職員と心理士との第二回の合同研修が行われました。県下十四の児童養護施設の心理職員と直接処遇職員な



「韓国の実習生」  
今年も、韓国からの実習生が来日しました。今年は大慶(テギョン)大学から女性二名が約二週間滞在しました。子どもたちとの交流する姿を見ていると言葉の壁は全く感じられませんでした。同時期に日本の学生が実習もしており、ちよっとした国際交流となりました。出来る限り交流ができる機会を持つ事は国際化が進む日本においても必要だと感じました。

「子ども会」  
平成十七年三月五日(土)子ども会の「六年生のお別れ会」でUSJに児童六名と職員一名が参加しました。子ども達は、行く前からずっとその日を楽しみにしていました。園内では、六年生ということもあり、それぞれのグループに分かれての自由行動でした。行きたい場所がそれぞれ異なり、話がまとまるのかと不安でしたが、さすが六年生、しっかりと計画を立てて行動することができていました。時間を有効に使い友達

らびに兵庫県立清水ヶ丘学園(情緒障害児短期治療施設)の職員など約五十名が参加しました。神戸親和女子大学助教授の大島先生より「直接処遇職員と心理士の相互理解のため」や兵庫県立清水ヶ丘学園の塩見課長より「情緒障害児短期治療施設における直接処遇職員と心理士の連携の紹介」の講義を聴く事ができました。また、後半は五ヶ所の児童養護施設の直接処遇職員二名と心理士三名がパネリストになりオープン座談会が行われ、各施設における実践経過などが報告されました。各施設によって心理士の配置状況が異なり、それぞれのメリットやデメリットなどを知ることができ、子ども達の心理的な問題を取り組む上で大変良い研修会でした。

にお土産を買ったり、職員に何をかうか悩むなど可愛い所も見せてくれていました。七十分待ちをしたスパイダーマンでは「まだ!」と怒りながらも乗った後は、満面の笑みで「七十分待った甲斐があった」と言っていました。機会があればまた行きたいとみんなが言っていました。



## 「子どもの幸せを考える フォーラム阪神大会」

平成十七年三月六日(日)尼崎市立教育総合センター・視聴覚センターで「児童福祉・児童養護の先駆者 石井十次の足跡をたどる」をテーマに映画「石井のおとうさんありがとう」が上映されました。子供の家

から児童十名と職員二名が参加しました。松平健さんが石井十次を演じ、ストーリーも分かりやすくとても見やすい映画でした。人間の優しさに触れる場面が多くあり、感動しました。幼稚園の子も職員から一つ一つ内容を確認しながら最後まで一生懸命に観ていました。



## 「施設での思い出」

高校生五名は、無事に卒業し、就職の準備や研修で自立に向けて頑張っています。退所に当たって子供の家での思い出を子ども達に書いてもらいました。

子供の家に入所して、色々な事を経験しました。楽しい事もあれば、友達にはわかってもらえないような辛い事もありました。でも「人生をやり直せるぞ」と言われても、私は入所したいと思いません。最初は、知らない人との生活が嫌で嫌でたまらなかつたけれど、友達になればすごい長い修学旅行みたいで楽しかったで

す。他の人にはない貴重な体験でした。人付き合いの難しさ、大切さが身にしみて実感できました。いろいろとお世話になりました。(Y・N)

私は子供の家での生活はたった三年間弱の短い間でしたが、色々な経験をしたり、行事に参加したりとても充実した三年間でした。特にここに来てから心から信頼できる友人に知り合えた事は私にとってとても大きな出来事でした。最後になりましたが、三年間色々ありがとうございました。(N・J)

僕は十六年間という長い間、子供の家で生活してきました。この長い年月を通して本当に貴重ですばらしい経験をさせて頂きました。ありがとうございました。(R・H)

七年間の施設生活を振り返り楽しかった思い出は、二年間の学校生活でした。門から学校の校舎までの坂は、行くたびに、足がパンパンになりおもしろかったです。学校の人たちは、いい人ばかりで何の苦もなく学校生活を送ることが出来ました。施設の先生方、御迷惑をお掛けしました。(T・N)

子供の家の先生方、お勝手の人達、そして子ども達、園長先生、十六年間お世話になりました。二歳の時から育ててもらい本当にありがとうございました。私にとって子供の家は本当の家でした。大好きな子供の家を出て行くのは、とても辛いです。沢山の思い出は、一生忘れません。私の一番の思い出は、レオクラブの行事でした。行事には一杯参加し、一杯出来ました。先生達の優しさは、私に勇気をくれました。悪い事はちゃんと怒ってくれたり、良いことをしたら誉めてくれました。

沢山の退所をする子ども達を見てきて遂に私も退所をする年になりました。退所が近づくとつれて色々な思い出が頭の中に浮かんできました。子供の家での思い出は最高に良かったです。今まで本当にありがとうございました。(N・I)

## 編集後記

新年度の準備に忙しい今日この頃、卒業式も終わり、一人ずつ子供の家を巣立っていく姿を見て、毎年ながら、寂しさ半分、期待半分の気持ちで見送りました。これから、社会で頑張っていく子ども達を、施設の外から応援していきたいとおもいます。(S・K)

---

---

---